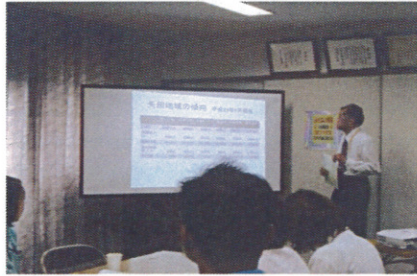


やた よた いん ましたん はな組

2012/10/16 (火)、第5回「やた はな組」を開催しました。
その時の様子を簡単に報告させていただきます!!

前回のアルコール依存症の勉強を踏まえて、第5回「やた はな組」は、矢田地域包括支援センターの平成23年度の地域ケア会議の振り返りを行い、包括からの事例紹介(アルコール依存症)を「日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会」の佐古恵利子さんをスーパーバイザーにお招きし、参加された皆さんとグループワークを行いました。



矢田地域は高齢化率が30%近くあり、全国および大阪市の平均よりも早いスピードで高齢化がすすんでおります。また独居、高齢者のみ世帯も増えており、ケースの発見や関わりについても対応が求められるところです。地域ケア会議の内容も認知症、虐待、アルコール等々分類はできますが、実際には相互の問題が複雑に絡まっており、単にサービス介入をすれば解決できるケースは稀有であり、全体の状況を把握し調整できる能力や知識が専門職には求められています。

地域ケア会議からの事例に基づいて、グループスーパービジョンを2つのグループで行いました。事例は、アルコール依存症で、自宅での発見、本人および家族への支援、通院への経過を経て、CMへつないだケースについて、地域包括から紹介。事例についてSV・佐古さんから、①ケースの早期発見について、②経験と比較しての気づき



について、ワークの課題を提案いただき、参加されたみなさんで話し合い、それぞれのコメントを聞いたうえで、SV・佐古さんからアドバイス



をいただきました。最後に現在支援されているCMから、いまの本人の様子や関わっての感想をお話いただきました。

今回、アルコール依存症の事例を通して、グループスーパービジョンを行いました。アルコール依存症そのものが問題ではなく、専門職がそれぞれ事例に対して関わっていける力をつけられるように、知識や技術(ソーシャルワーク、スーパーバイズ、コミュニティワーク、ネットワークetc.)を身に付けていくことが重要なことなのではないでしょうか。

情報交換として、「関西アルコール関連問題学会大阪大会」、「飲酒と健康を考える会」(区と市版)の説明。4町域で実施する認知症予防事業について紹介。

「やた はな組」では、できるだけ参加された方々に、自分の考えを自分の言葉で話していただき、他の人の意見も聞き、求める答えは参加者が自ら導き出してもらいたいと考えています。そのうえで、地域における相談支援の担い手として、一人一人が力をつけていただいたなら、矢田の地域にとって、何より心強い存在になっていただけたと思います。

スーパーバイザーとしてご指導いただいた佐古恵利子さん、ご協力いただいた矢田中ネットワーク推進員の佐藤さん、参加いただいたケアマネのみなさん ありがとうございます。

次回「第6回 はな組」にも、みなさまの参加をお待ちしています。

「やた はな組」は、参加される皆さんの意見を反映させ、自由につくっていきたいと思っています。皆さんの要望や意見もお聞かせください!!

矢田地域包括支援センター
電話 06-6694-5552 E-mail houkatu@karan.or.jp